

地域づくりネットワーク埼玉県協議会会員情報

団体名	あらかわめっせYorii21（寄居町）	
DATE	代表者	豊田 康業（とよだ やすなり）
	事務局	権田 光春（ごんだ みつはる） 〒369-1215 寄居町牟礼1556 TEL 048-582-4193
	情報誌等送付先	豊田 康業 〒369-1224 寄居町鉢形1747-9 TEL 048-581-6901
	HomePage	http://www.yorii.or.jp/~messe21/
	構成員	15人（男14人 女1人）
	活動日	基本的に毎月17日
	活動場所	寄居町勤労福祉センター（よりの会館）
設立のきっかけ	昭和62年に町民参加の祭り「夢っ子まつり」が全国放映されるのを機に、寄居町の誇れるもの、アイデンティティーは何なのかを議論することとなった。私たちは全国名水百選に選定された日本水と町の中央を貫く荒川であると考えた。そこで、水を切り口にしたイベント、「あらかわめっせYorii21 水おこし、寄居(まち)おこし、人おこし」を実施するに到った。このことが設立のきっかけとなった。	
活動の内容	<p>(1) 「あらかわめっせYorii21 水おこし、寄居(まち)おこし、人おこし」 昭和62年に実施したこのイベントでは、「水とまちづくり」をテーマに記念講演とパネルディスカッションを行った。そして「名水サミット」では、全国名水百選をすべて寄居町に集め、名水を通して市町村の交流を行った。</p> <p>(2) さいたま川の博物館の基本構想を提出 “かわ博”は平成9年にオープンした。その10年前、昭和63年「荒川博物館が寄居にやってきます！」と題した寄居町民意識調査を踏まえて、荒川流域の生活文化を直接体験できる「生きた博物館」を構想・提案し、埼玉県の博物館構想にもその内容が反映された。</p> <p>(3) AMU'S (Arakawa Museum Supporter) への参加 アミューズは“かわ博”の民間における友の会である。寄居町の各種団体の参加で平成9年に結成された。会もこの創設に参画し、「荒川いかだ下り」などのイベントに加わった。</p> <p>(4) 講話を月1回開催 新しいまちづくりを実践していくために、様々な情報を収集・活用していく必要を感じ、町内外で様々な分野で活躍している方を講師に招いて、まちづくりや文化、経済、政治などをテーマに勉強会（講話）を月1回開催している。</p>	
エピソード	昭和62年のイベント「あらかわめっせYorii21」は、開催日のたった1ヶ月前、たった7人の仲間準備を始めた。連日連夜議論し、準備に走り回った。イベントでは「名水サミット」と称して全国の百名水すべてが寄居町に集まった。そして7人の輪は、イベント当日には50人以上もの協力者に膨れ上がった。イベントのフィナーレ、秩父・寄居・熊谷の祭囃子の競演では、子供たちの演奏に、ただ、涙、涙であった。	
今後の計画目標	<p>(1) 勉強会から行動へ 毎月の定例会・勉強会を通して吸収した情報をもとに、寄居町の新しいまちづくりへの提案を実践活動の中で表現していきたい。</p> <p>(2) あらかわめっせYorii21ホームページの作成 ホームページを作成することで、インターネット等を通じて日本中の様々な団体と交流をしていきたい。</p>	
年間行事	5月	総会
	8月	アミューズ (AMU'S) 主催の「荒川いかだ下り」に参加
	月1回	講師を招いての勉強会を開催
これまでの歴史	昭和62年3月	あらかわめっせYorii21発足
	昭和62年3月21日	イベント「あらかわめっせYorii21 水おこし、寄居(まち)おこし、人おこし」実施
	昭和63年1月	「荒川博物館基本構想」企画案を作成
	平成9年6月	「さいたま川の博物館」の民間による友の会AMU'S (Arakawa Museum Supporter) に参画
	平成9年9月	荒川流域ネットワーク主催のイベント「清流よよみがえれ」に参加
	平成14年8月	荒川源流ツアー
会員からの一言	会が設立して12年目にあたる平成10年3月に、「地域づくり団体自治大臣表彰」を受賞した。これを機に「あらかわめっせYorii21」設立の原点に立ち戻ることも必要だろう。そして今、一番考えねばならないのは、次の世代である20代以下の仲間を増やしていくことだと思う。私たちの合言葉「まちを愛することは、まちを知ることである。」をまちの若者に一人ひとり、熱く語りかけたいものだ。	

地域づくりネットワーク埼玉県協議会会員情報

代表者からの一言	荒川は埼玉の母なる川です。全長170km、秩父の甲武信ヶ岳に発して東京につながる荒川。荒川を縁に、上流、中流、下流の町が、村が、市が、ネットワークしていくことが大切だと感じています。経済面、そして生活・文化面、あらゆる角度から流域を運営していく視点が必要になってきていると思います。皆様からのアドバイス、ご意見をお待ちしています。
----------	---